

新教育課程

内容解説資料
886367

2022 年度～

高等学校 学習指導要領

ポイント解説

地理 歴史

CONTENTS

高等学校学習指導要領「総則」の改訂の要点	2
高等学校学習指導要領「地理歴史」の改訂の要点	4
地理総合	
新課程と現行課程の項目比較	5
高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」	6
地理探究	
新課程と現行課程の項目比較	10
高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」	11
歴史総合	
新課程と現行課程の項目比較	15
高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」	16
日本史探究	
新課程と現行課程の項目比較	20
高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」	21
世界史探究	
新課程と現行課程の項目比較	26
高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」	27
カリキュラムモデル案	33



高等学校学習指導要領「総則」の改訂の要点

【総則の主な改訂ポイント】

1. 教育基本法の理念と教育課程の役割等

- 前文に、「社会に開かれた教育課程」実現に向け、広く社会で共有されることが望まれるということを明記。

2. 高等学校における学びの質の改善

- 生徒の資質・能力を育成するため、**主体的・対話的で深い学び**の視点から授業改善に配慮することを明記。
- 教育活動の質の改善を図るため、各学校において**カリキュラム・マネジメント**に努めることを明記。

3. 学校段階等間や教科等間の接続

- 生徒に求められる資質・能力がバランスよく育まれるよう、卒業後の進路を含む**学校段階等間の接続**を明記。
- 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習基盤となる資質・能力等の育成を図ることを明記。
- 教科等の特性に応じて、言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動等の充実を図ることを明記。

4. 生徒の発達支援、家庭や地域との連携・協働等

- 生徒の発達支援の視点から、**ホームルーム経営や生徒指導、キャリア教育の充実と教育課程の関係**を明記。
- 部活動**について、教育課程との関連を図るよう留意、関係機関と連携し持続可能な運営体制の確保を明記。
- 教育課程の実施に当たり、**家庭や地域と連携し、協働**していくことを明記。

5. 道德教育の充実

- 校長の方針の下、**道德教育推進教師**を中心に、全ての教師が協力し**道德教育**を展開することを新たに明記。
- 「**公共**」「**倫理**」「**特別活動**」が、人間としての在り方生き方に関する中核的指導の場面であることを明記。

(1)科目構成と必修科目

- 卒業までに履修させる単位数は、現行どおり**74単位以上**。なお、1単位時間を50分、35単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする。
- 必修科目は、国語で「**現代の国語**」及び「**言語文化**」、地理歴史で「**地理総合**」及び「**歴史総合**」、公民で「**公共**」、外国語で「**英語コミュニケーションⅠ**」、情報で「**情報Ⅰ**」に変更された。「総合的な学習の時間」が「**総合的な探究の時間**」に変更された。
- 必修科目の単位数は標準単位数を下らないとするが、「数学Ⅰ」と「英語コミュニケーションⅠ」で必要な場合に2単位とできる。他の必修科目は2単位のものを除き、単位数を減じることができる。「**総合的な探究の時間**」も必要な場合、**2単位**とできる。
- 新教科「**理数科**」（科目「**理数探究基礎**」「**理数探究**」）が設けられ、その履修により「総合的な探究の時間」と同様の成果が期待できる場合、置き換えが可能。
- 各教科・科目の標準単位数はp3の下図のとおりであるが、生徒の実態を考慮し、特に必要のある場合には、**単位数を増加**して配当することができる。
- 生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、「**学校設定教科**」「**学校設定科目**」を設けることができる。なお、修得単位数は合わせて20単位まで。
- 専門学科**では、専門教科・科目の履修単位数が25単位を下ってはならない。専門学科・科目の履修によって、必修教科・科目の履修と同じ成果を期待できる場合、置き換えることができる。また課題研究等の履修に

より「総合的な探究の時間」と同様の成果が期待できる場合も置き換えることができる。

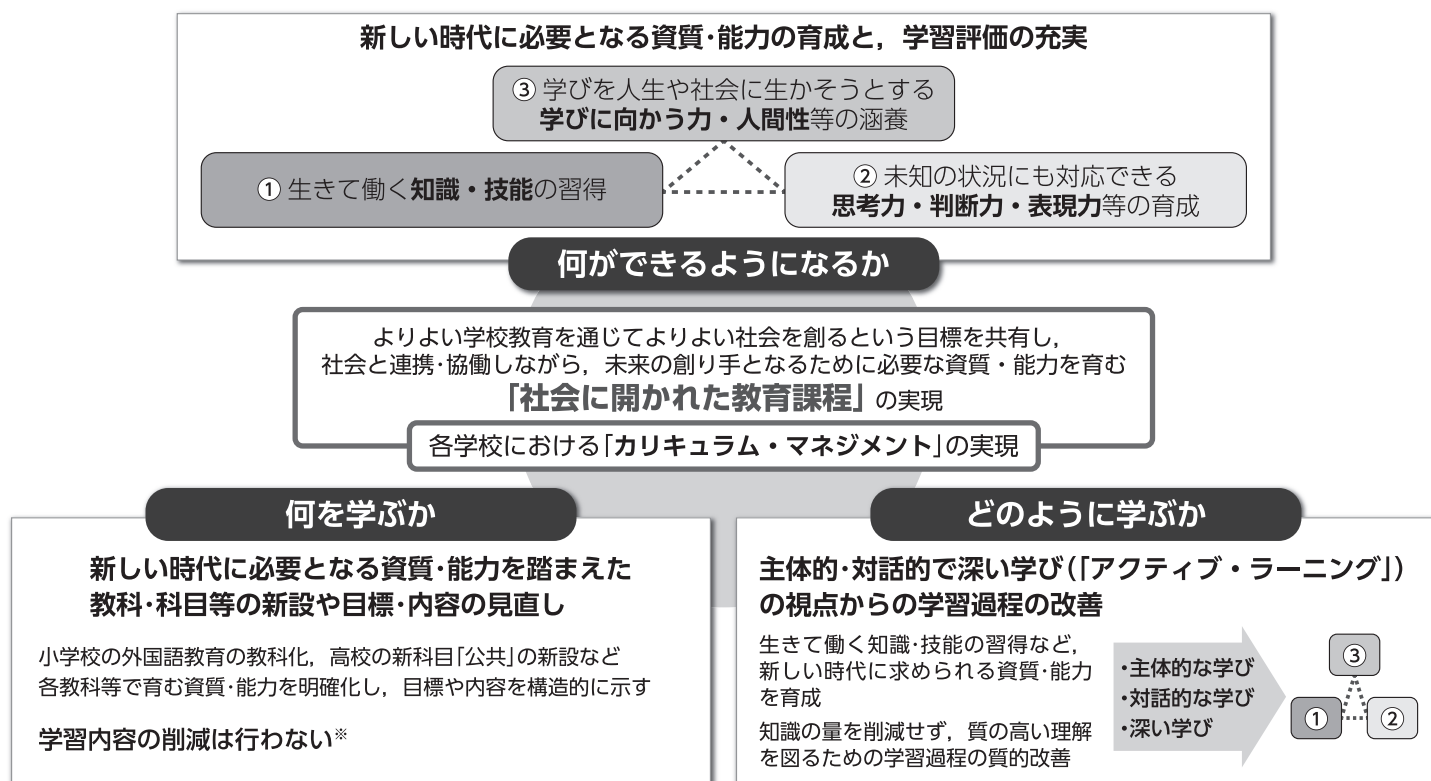
(2)各教科・科目の授業時数

- 全日制課程では年間35週の授業を行うことを標準とするが、必要な場合は特定の学期又は特定の期間(夏季・冬季等の休業期等)に授業を行うことができる。
- 全日制課程の週当たりの授業時数は**30単位時間を標準**とするが、**必要な場合に増加**することができる。
- 1単位時間は各学校が適切に定める。10分間程度の短時間の指導も一定要件で授業時数に算入できる。
- 「総合的な探究の時間」の活動が特別活動の学校行事と同様の成果が期待できる場合、置き換えられる。

(3)各教科・科目の内容の取扱い

- 各科目等に示す「**内容の取扱い**」で、内容の範囲や程度等を示す事項は、必要な場合にはこの事項に関わらず指導できるが、科目等の示す目標・内容の趣旨の逸脱や、生徒への負荷荷重になってはならない。
- 各科目等の「**内容**」に示す項目の順序は、特に「**内容の取扱い**」等で示す場合を除き、指導の順序を示すものでないので、学校においてその取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

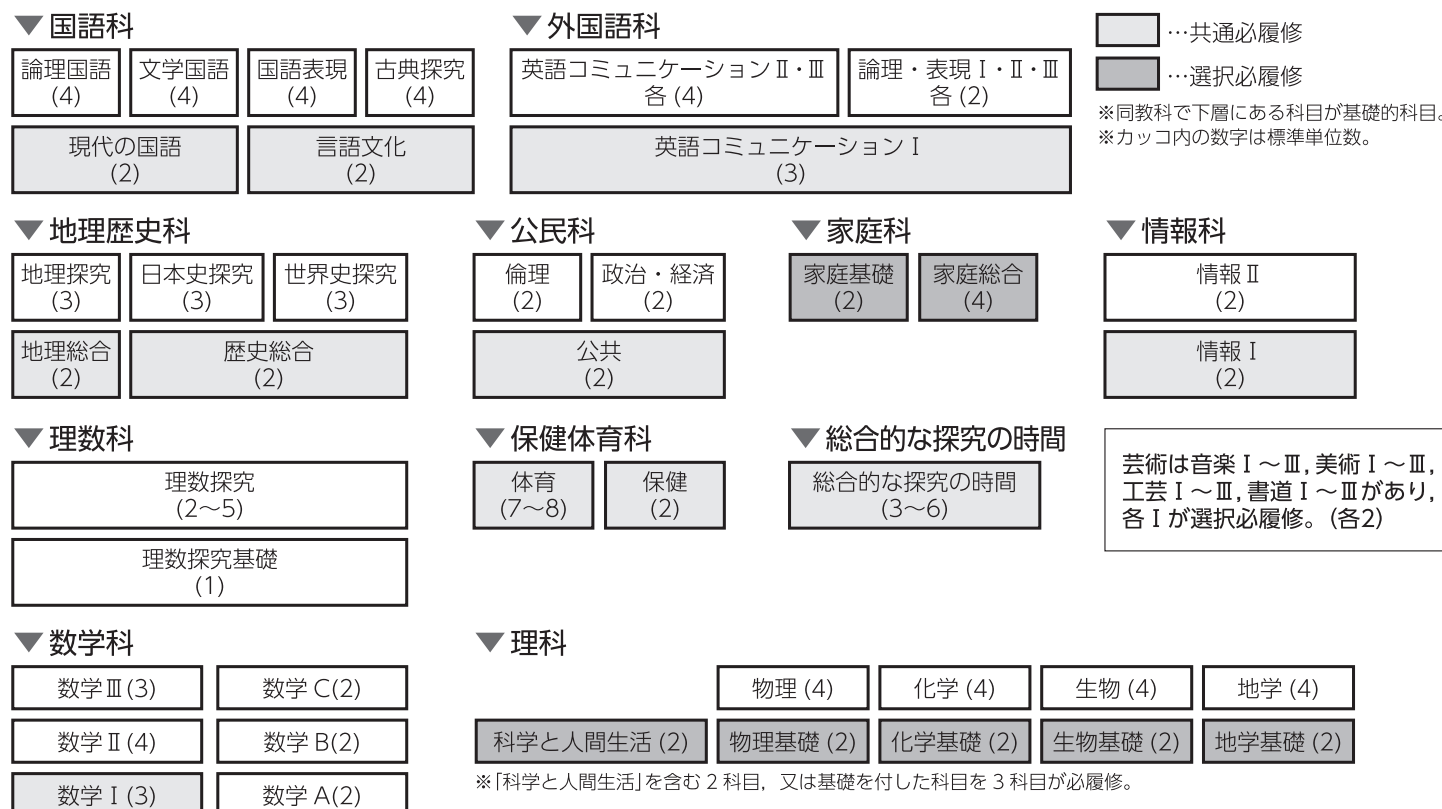
学習指導要領改訂の方向性



※高校教育については，些末な事実に知識の暗記が大学入学選抜で問われることが課題になっており，
そうした点を克服するため，重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

（出典：文部科学省資料）

高等学校の教科・科目構成



（文部科学省資料を基に作成）

高等学校学習指導要領「地理歴史」の改訂の要点

【改訂のポイント】

- 必履修科目として「地理総合」及び「歴史総合」を新設するとともに、発展的に学習する選択科目として「地理探究」、「日本史探究」、「世界史探究」を設定。
- 「社会的事象の地理的な見方・考え方」、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせ、地理や歴史に関わる課題を把握して、その解決に向けて考察・構想する学びを重視。
- 「主題」や「問い」を中心に構成する学習を展開し、とくに歴史科目では、単元や内容のまとまりを重視した学習の展開で、資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習を重視。

(1)科目構成と必履修科目

改 訂		
科 目	標準 単位数	必履修科目
地理総合	2	○
地理探究	3	
歴史総合	2	○
日本史探究	3	
世界史探究	3	



現 行		
科 目	標準 単位数	必履修科目
世界史A	2	「世界史A」及び「世界史B」のうちから1科目、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」及び「地理B」から1科目の合計2科目が必履修
世界史B	4	
日本史A	2	
日本史B	4	
地理A	2	
地理B	4	

(2)各科目の学習内容・指導の改善・充実

【地理総合】

- 持続可能な社会づくりを目指し、地理的環境と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的課題を考察。
- グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察。
- 現代世界の地域構成を捉える地図や地理情報システム(GIS)に関わる地理的技能の習得。

【歴史総合】

- 世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解。
- 課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察。
- 歴史の大きな変化に着目し、問いを設け、資料を活用しながら歴史の学び方を習得。

【地理探究】

- 系統地理的考察と地誌的考察を前提として、これからの日本の国土の在り方について探究。
- 系統地理的考察と地誌的考察で取り上げる事象、地域は重点化する。

【日本史探究】

- 時代の転換や展開を捉え、歴史の画期を見いだし現代の日本の課題を歴史的な経緯を踏まえて探究。
- 「歴史の解釈、説明、論述」を通じた思考力、判断力、表現力等の育成の一層の重視。

【世界史探究】

- 世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉え、地球世界の課題を歴史的な経緯を踏まえて探究。
- 地球世界につながる諸地域の多様性や複合性について、段階的に考察を深める学習の充実。



地理総合

2単位

新課程と現行課程の項目比較

新課程「地理総合」(2単位)	現行課程「地理A」(2単位)
A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システムと現代世界	(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ア 地球儀や地図からとらえる現代世界 イ 世界の生活・文化の多様性 ウ 地球的課題の地理的考察
B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解 (2) 地球的課題と国際協力	(2) 生活圏の諸課題の地理的考察 ア 日常生活と結び付いた地図 イ 自然環境と防災 ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査
C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災 (2) 生活圏の調査と地域の展望	現行課程「地理B」 (1) 様々な地図と地理的技能 ア 地理情報と地図 イ 地図の活用と地域調査

高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」

- 目 標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

ポイント解説	留意点
A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 【解説】 この大項目は「地理総合」の学習の導入にあたる。現代世界の地域構成を主な学習対象とし、その結び付きを地図や地理情報システム（GIS）を用いて捉える学習の中で汎用的な地理的技能を習得することを主なねらいとしている。 (1) 地図や地理情報システムと現代世界 【解説】 この中項目は、位置や分布などに着目して、現代世界の地域構成や、地図や GIS の活用の仕方を多面的・多角的に考察して表現する力を育成すること、また、現代世界の地域構成の特色や、地図や GIS の役割や有用性を理解し、そのために必要な技能を身に付けることをねらいとしている。位置や分布に関わる視点としては、例えば、現代世界の地域構成を、絶対的な位置関係とともに、地域間、国家間といった相対的な位置関係から捉えることなどが考えられる。 ここでは、現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解すること、日常生活で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や GIS の役割や有用性を理解すること、今後の学習で地理的技能を活用する端緒となるよう地図や GIS などを用いて現代世界の地理情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けることが求められている。また、位置や範囲に着目して主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に学習すること、地図や GIS を目的や用途によって適切に選択できるようにすることが求められている。 B 国際理解と国際協力 【解説】 この大項目は、大項目 A を踏まえ、世界の特色ある生活文化と	様々な地図の読図によって現代世界を地理的な視点で概観するとともに、球面上の世界の捉え方にも習熟するよう工夫する。 日本の位置と領域は、日本の領域をめぐる問題に触れ、海洋国家としての特色や海洋の役割についても取り上げる。 作業的で具体的な体験を伴う学習を通して、地理的技能が身に付くよう留意する。また、地理的技能については、中学校での既習事項を十分に踏まえる。

地球的課題を主な学習対象とし、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、**国際理解や国際協力の重要性を認識すること**を主なねらいとしている。

(1) 生活文化の多様性と国際理解

【解説】 この中項目では、**場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目**して、世界の人々の生活文化を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、**世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解**できるようにすることが求められている。場所に関わる視点としては、例えば、世界の人々の特色ある生活文化を、その生活文化が見られる場所の地理的環境の共通点や相違点、歴史的背景との関わりから捉えることなどが考えられる。また、人間と自然環境との相互依存関係に関わる視点としては、例えば、世界の人々の特色ある生活文化の多様性や変容の原因を、それが見られる場所の人間生活と自然環境との関わりから捉えることなどが考えられる。ここでいう「生活文化」とは、地理的環境との関わりにおいて育まれる人間の生活の営みであり、衣食住を中心とする世界の人々の暮らしや、そこから生み出される慣習や規範・宗教などの**生活様式に関わる事柄**を意味している。

ここでの学習のねらいは**国際理解**であり、学習対象はあくまで「世界の人々の特色ある生活文化」である。中学校社会科地理的分野での「世界の諸地域」の内容の繰り返しとならないよう、また「地理探究」における「現代世界の諸地域」の学習との重複にならないよう、厳に留意する必要がある。世界の生活文化を網羅的に取り扱うのではなく、生徒が考察するにふさわしい特色ある事例を選び、**主題を設定し問いを立てて**多面的・多角的に学習することが求められている。

また、地理的環境には自然環境だけでなく、歴史的背景や社会的環境も含まれることに留意し、生活と宗教との関わりなどについても取り上げ、日本と世界の諸地域との共通点や相違点に着目し、多様な習慣や価値観を持っている人々と共存していくための資質・能力が育成できるように努める必要がある。

(2) 地球的課題と国際協力

【解説】 この中項目は、**空間的相互依存作用や地域に関わる視点に着目**して、世界各地で見られる地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地球的課題の傾向性や課題相互の関連性を大観し、**課題解決を目指した各国の取組や国際協力の必要性**を理解できるようにすることをねらいとしている。空間的相互依存作用に関わる視点としては、例えば、世界各地で見られる地球的課題の現状を、個々の事象の地域的な結び付きや広がりから捉えることなどが考えられる。また、地域に関わる視点としては、世界各地で見られる地球的課題を、課題の現状や要因、地域性を踏まえた課題解決の方向性といった側面から捉えることなどが考えられる。

ここでは、世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などの地球的課題について、各課題が世界においてどのような状況で見られ、他の課題とどのようなつながり

例えば、世界各地の食生活を取り上げ、食材や調理法、調味料、食事方法などが自然環境の差異や宗教上の禁忌などの理由によって多様性が見られることから、世界の生活文化と地理的環境の関係性を考察する学習活動が考えられる。

表面的な相違点を強調することは自他の文化の理解の妨げにもなるため、その取扱いには十分配慮する。

ここで取り上げる地球的課題は、国際連合が定めた持続可能な開発目標(SDGs)などを参考に、ふさわし

があるのかといった偏向性や関連性を地球的視野から捉えて理解し、また地球的課題の解決には各国の取組や地域・国家間の協力が必要であることから、具体的な事例を取り上げてその意義や必要性などを理解することが求められている。さらに、各地で見られる地球的課題の現状や要因、解決の方向性などを主題を設定して多角的・多面的に考察し、表現する必要がある。例えば、「食料問題」を事例にして「食料問題とその解決の方向性」という主題を設け、まずは食料問題の現状について考察する問い、次に食料問題の要因について考察する問い、これらを踏まえて食料問題の解決の方向性について考察する問いを立て、一連の流れの中で学習する展開が考えられる。また、さらに追究を深めるような発展的な問いを立てて考察する学習活動も考えられる。

C 持続可能な地域づくりと私たち

【解説】 この大項目は、大項目A、Bを踏まえ、国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して、**持続可能な地域づくりを展望**することを主なねらいとしている。

(1) 自然環境と防災

【解説】 この中項目は、**人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目**して、地域性を踏まえた防災を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、**自然環境の特色と防災との関わりや、地域性を踏まえた防災の重要性**などを理解し、そのために必要な技術を身に付けられるようにすることが求められている。人間と自然環境に関わる視点としては、例えば、自然災害の規模や頻度、それへの備えや対応を、それらが見られる場所の人間活動と自然環境との関わりから捉えることなどが考えられる。また、地域に関わる視点としては、例えば、地域性を踏まえた防災を、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりといった側面から捉えることなどが考えられる。

ここでは、地震災害や津波災害、風水害、火山災害など、**日本や世界、生徒の生活圏で見られる自然災害**から適切な事例を取り上げる。これらの災害と自然環境などとの関係や日本の自然環境が自然災害に結び付きやすいこと、生徒が居住する地域やその周辺で過去に発生した自然災害とその発生原因となる自然環境の特色、人間活動との関わりについて理解する。いずれの自然災害を取り扱う場合も、例示される自然災害を網羅的に取り上げるのではなく、生徒の生活圏で見られる自然災害を視野に、見通しを持って適切な事例を取り上げる必要がある。また、様々な**自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図などから地理情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能**を身に付けること、主題を設定して自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現することが求められている。

(2) 生活圏の調査と地域の展望

【解説】 この中項目は、「地理総合」のまとめとして位置づけられ、**空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目**して、生活圏の地理的な課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、**地理**

い特色ある事例を選ぶ。

各課題は地域によって現れ方や程度などに違いがあること、現状や要因の分析、解決の方向性については複数の立場や意見があることに留意する。

日本は変化に富んだ地形や気候を持ち、様々な自然災害が多発することから、早くから自然災害への対応に努めていたことなどを具体例を通して扱う。

生徒の日常生活と結び付いた地理的技能を身に付け、防災意識を高めるよう工夫する。

的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などを理解できるようにすることが求められている。空間的相互依存作用に関わる視点としては、例えば、生活圏の地理的な課題の現状を、個々の事象の地域的な結び付きや広がりから捉えることなどが考えられる。また、地域に関わる視点としては、例えば、生活圏の地理的な課題を、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりといった側面から捉えることなどが考えられる。

ここでは、生活圏の地域調査を通して、地理的な課題の解決に向けた取組や探究の手法などについて理解することが求められている。調査を通して収集した知識や情報のまとめ、GISなどを活用した資料作成、発表や意見交換といった言語活動、学習成果を地域に還元するなどの社会参画といった一連の学習活動が想定されている。生活圏の課題の解決に向けた取組を考察、構想することで、日本や世界の諸課題を考察し、日本の国土像を探究する「地理探究」に結び付く位置付けともなっている。

生活圏の調査は、生徒の特性や学校の所在地などを考慮して、地域調査を実施し、生徒が適切に調査の方法を身に付けられるよう工夫する。

指導計画の作成と指導上の配慮事項

(1) 中学校社会科との関連と指導内容の構成について

「地理総合」は、中学校社会科地理的分野との関係が深く、また社会的事象を学習の対象とする歴史的分野及び公民的分野の学習を前提として構成されているため、必要に応じて中学校社会科の学習を振り返り、関連を図りながら指導する。指導計画の作成及び指導の際には、学習指導要領が示す内容構成の趣旨とねらいに基づき、教科・科目の目標が達成できるよう工夫する。

(2) 地理的技能について

地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなどの地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導する。その際、教科用図書「地図」を十分に活用し、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫する。また、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能については、インターネット上に公開されている公的機関をはじめとする情報提供サイトを、中学校以上に適宜適切に利用する。

(3) 作業的で具体的な体験を伴う活動と地図を活用した言語活動の充実について

地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な学習を取り入れ、各項目を関連付けて地理的技能が身に付くよう工夫する。また、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させる。

(4) 歴史的背景を踏まえることと、政治的、経済的、生物的、地学的な事象などの扱いについて

学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえることとし、政治的、経済的、生物的、地学的な事象なども必要に応じて扱う。しかし、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とする。また、人文地理に関する内容は公民科の「公共」及び「政治・経済」、自然地理に関する内容は理科の地学や生物に関する科目と関連が深いため、指導計画の作成の際は、相互の科目の特性などを考慮し、関連、調整を図る。

(5) 専門家などとの連携について

調査の実施や諸資料の収集では、専門家や関係諸機関などと円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した活動を重視する。

(6) 日本の取扱いについて

各項目の内容に応じて日本を含めて扱い、日本と比較し、関連付けて考察する。指導の際には、現代世界の地理に関わる諸事象の理解、認識が深められるよう工夫し、社会的事象に対する地理的な見方・考え方を鍛え、広い視野からグローバル社会における日本の役割について考えることができるよう配慮する。



地理探究

3単位

新課程と現行課程の項目比較

新課程「地理探究」(3単位)	現行課程「地理B」(4単位)
A 現代世界の系統地理的考察 (1) 自然環境 (2) 資源, 産業 (3) 交通・通信, 観光 (4) 人口, 都市・村落 (5) 生活文化, 民族・宗教	(1) 様々な地図と地理的技能 ア 地理情報と地図 イ 地図の活用と地域調査
B 現代世界の地誌的考察 (1) 現代世界の地域区分 (2) 現代世界の諸地域	(2) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境 イ 資源, 産業 ウ 人口, 都市・村落 エ 生活文化, 民族・宗教
C 現代世界におけるこれからの日本の国土像 (1) 持続可能な国土像の探究	(3) 現代世界の地誌的考察 ア 現代世界の地域区分 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本
新課程「地理総合」 A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システムと現代世界 C 持続可能な地域づくりと私たち (2) 生活圏の調査と地域の展望	

高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」

目 標 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養^{かん}される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。	
ポイント解説	留意点
A 現代世界の系統地理的考察 【解説】 この大項目は、現代世界における地理的な諸事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えることにより、現代世界の諸事象の地理的認識と、系統地理的な考察の手法を身に付けることをねらいとする。このねらいを達成するため、「(1) 自然環境」、「(2) 資源、産業」、「(3) 交通・通信、観光」、「(4) 人口、都市・村落」、「生活文化、民族・宗教」の5つの中項目で構成されている。 (1) 自然環境 【解説】 この中項目では、場所や人間と自然環境との相互依存関係に着目して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること、また、自然災害や地球環境問題などの空間的な規則性や傾向性を理解させ、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解させることが求められている。 (2) 資源、産業 【解説】 この中項目では、場所や空間的相互依存作用などに着目して、資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること、また、地下資源の分布や農業地域の分布、工業立地とその変化などの空間的な規則性や傾向性を理解させ、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組を理解させることが求められている。 (3) 交通・通信、観光 【解説】 この中項目では、場所や空間的相互依存作用などに着目して、交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を地理的環境の共通点や相違点との関わりから捉えるなど、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること、また、交通網・通信網の地域による分布や密度の違い、観光地の立地や訪れる観光客の動向などの	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる「地理総合」の学習成果を踏まえ、場所の特徴などに着目して主題を設定し、系統地理的に考察・表現するよう工夫する。 ここで取り上げる自然環境は、「地理総合」の大項目Cの「(1) 自然環境と防災」における学習成果を踏まえ、地球環境問題や自然災害なども扱うことに留意する。 資源、産業は、技術革新や世界経済の動向によって変化するため、社会の動向を踏まえて取り上げる事象を選択する。 各交通機関が輸送対象とともに、輸送距離、輸送時間、地域性などにより使い分けられていることに留意する。また、交通が社会の変化に伴って変容したり、社会自体にも影響

空間的な規則性や傾向性を理解させ、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組を理解させることが求められている。

(4) 人口、都市・村落

【解説】 この中項目では、**場所や空間的相互依存作用などに着目して、人口、都市・村落**などを地理的環境の共通点や相違点との関わりから捉えるなど、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること、また、人口増減や人口分布・構成の変化、集落の立地や形態の共通性や地域性、都市の変容など諸事象の空間的な規則性や傾向性を理解させ、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組を理解させることが求められている。

(5) 生活文化、民族・宗教

【解説】 この中項目では、**場所や空間的相互依存作用などに着目して、生活文化、民族・宗教**などを地理的環境の共通点や相違点との関わりから捉えるなど、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること、また、生活文化、民族・宗教、領土問題などに関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性を理解させ、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組を理解させることが求められている。

B 現代世界の地誌的考察

【解説】 この大項目は、現代世界を構成する**諸地域の地域性と諸課題を捉える学習**を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深め、**現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付ける**ことをねらいとする。このねらいを達成するため、「(1) 現代世界の地域区分」、「(2) 現代世界の諸地域」という二つの中項目で構成されている。

(1) 現代世界の地域区分

【解説】 この中項目では、**位置や分布の規則性や傾向性、地域の共通点や差異などに着目して**、世界や世界の諸地域の地域区分を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること、また、**地域区分の方法や地域概念、地域区分の意義**などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすることが求められている。

地域区分の方法について考察する際は、**自然、政治、経済、文化などの指標**により作成された世界の諸地域に関する主題図や資料を活用して、現代世界が様々な地域に区分できることを理解させる。例えば、分布図の指標の等質性や機能的な関係に注目したり、分布図を基に特色ある地域のみを抽出したり、分布図を重ね合わせたり、複数の指標を組み合わせたりすることによって空間的なまとまりである地域区分を行う。こうした地域区分の方法を通して、多様な地域概念を理解し、現代世界の多面性に気付くことが期待できる。また、これらの過程から、地域区分は世界を地理的に理解するための方法や枠組みであり、世界は様々な側面から理解できるという地域区分の意義を理解させたい。

地域の捉え方などを考察する際は、世界や世界の諸地域に広く見られる事象を、それが発生する地点や広がり、規則性、傾向性から捉えたり、その事象の共通点や相違点により区分される意味のある広がり、空間的なまとまりといった側面から捉えたりすることで、世界の諸地域の地

を与えたりすることに留意する。

人口、移住・都市問題への対応は、国や地方公共団体の取組とも深く関わるため、中学校社会科公民的分野の内容を踏まえることや、高等学校公民科の内容との連携を図ることに留意する。

ここでは、「地理総合」の大項目Bの「(1) 生活文化の多様性と国際理解」における学習成果を踏まえる。領土問題については、日本の領土問題にも触れる。

大項目Aの「現代世界の系統地理的考察」の学習成果を踏まえ、さらに大項目Cの「現代世界におけるこれからの日本の国土像」につながるよう留意する。

大項目Aの「現代世界の系統地理的考察」の学習成果を踏まえ、世界の諸地域の特色や現代世界の諸課題を様々な指標による地域区分図に反映させて取り上げるよう留意する。

様々な地域区分を通して多様な地域観を養い、次の「(2) 現代世界の諸地域」学習につながるよう工夫する。

域区分を多面的・多角的に理解させることが考えられる。

この中項目の授業展開として、「実質地域としての地域の捉え方」を主題とした例が挙げられている。「世界はどのように地域区分されるだろうか」という問いを立て、宗教や国家間の結び付き、経済成長率などを取り上げ、地域区分図を作成する。その上でユーラシア大陸を区分する際に、「ロシア連邦はアジアなのだろうか、それともヨーロッパなのだろうか」という問いを立てることによって、ロシア連邦の多様性を踏まえて、実質地域による地域区分の意味や意義を考察するという学習活動が考えられる。

(2) 現代世界の諸地域

【解説】 この中項目では、空間的相互依存作用や地域に着目して、現代世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成し、区分した諸地域に見られる**地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法**を理解させることが求められている。

地域的特色としての地域の景観や諸事象の変化のみにとらわれず、時代の趨勢などを踏まえながら、グローバル化を背景とした地域間・国家間などの結び付きや、地理的な諸事象が、規則性、傾向性を持ちながら構造的に結び付き、それらは時代とともに変化することなどに留意して、現代世界の諸地域を考察することが大切である。この際、**取り上げた地域の様々な事象を項目ごとに整理したり、特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けたり、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較したりして、それぞれの地域的特色や地球的課題を学習する**といった、地誌的な考察方法が身に付くよう工夫する。

また、現代世界は地球規模で進行する様々な課題を抱えており、そうした地球的課題は地域によって多様な現れ方をしている。地球的課題の所在や解決の方向性を検討する上でも、**地域的特色を踏まえて考察**することが効果的である。ここで想定される授業展開例を以下に示す。

学習指導の展開例

(ア) 地域区分の指標：「国家の結び付き」

取り上げる地域：「東南アジア」

考察方法：取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに整理して
考察する方法

(イ) 地域区分の指標：「経済成長率」

取り上げる地域：「インド」

考察方法：取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に
関連付けて考察する方法

(ウ) 地域区分の指標：「宗教」

取り上げる地域：「イスラーム諸国」

考察方法：対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考
察する方法

中学校社会科地理分野の「世界の諸地域」における、主に州を単位とする取り上げ方とは異なる。「(1) 現代世界の地域区分」の学習成果を踏まえ、様々な規模の地域を世界全体から偏りなく取り上げるよう留意する。

ただし、羅列的に知識を身に付けることはねらいとされておらず、世界全体を隈なく取り上げるものではないことに留意する。

地球的課題を考察する際、必要に応じて、他の諸科学の成果なども活用しながら、現代世界の地理的認識を深められるよう留意する。

C 現代世界におけるこれからの日本の国土像

【解説】 この大項目は、現代の日本が抱える地理的な諸課題の解決の方

大項目Aの「現代世界の系統地理的考察」及び大項目Bの「現代世界

向性や将来の国土の在り方を構想させることを通して、**持続可能な国土像を探究**することをねらいとしている。そのねらいを達成するため、「(1) 持続可能な国土像の探究」という中項目で構成されている。

(1) 持続可能な国土像の探究

【解説】 この中項目では、**空間的相互依存作用や地域に着目**して、これからの日本の国土像を多面的・多角的に探究し、表現する力を育成し、また、日本が抱える**地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方を構想することの重要性や、探究する手法など**を理解させることが求められている。

望ましい日本の国土像などを多面的・多角的に探究する際、複数の立場や意見を踏まえて構想することや、自ら課題を設定し、情報の収集、整理・分析を行って仮説を検証する中で、新たな意見や理解の深化を見出し、改めて仮説や課題の設定を行うといった、スパイラルする主体的な学習活動が考えられる。このような学習が生徒の社会参画を促す力となることをねらいとしており、授業の中で終結するのではなく、日常生活においても持続的に行われることが望ましい。生徒には、予測できない変化に受け身で対応するのではなく、豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手となることが期待されている。

の地誌的考察」の学習成果を踏まえ、科目のまとめとして位置付けるよう留意する。また、地理的技能を十分に生かして学習を進める。

生徒が自己の興味・関心などを踏まえて適切な課題を設定し、地理的な見方・考え方を働かせて探究し、表現する学習活動になるよう、主題を設定することに留意する。

指導計画の作成と指導上の配慮事項

(1) 中学校社会科との関連と指導内容の構成について

「地理探究」の科目の目標達成を目指した学習を展開するにあたり、「地理探究」の大項目Bは、大項目Aの学習成果を踏まえて、大項目Cは大項目A、Bの学習成果を踏まえて学習できるよう、指導計画を作成する。指導計画の作成及び指導の際には、学習指導要領が示す内容構成の趣旨とねらいに基づいて、教科・科目の目標が達成できるよう工夫する。

(2) 地理的技能について

地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導する。その際、教科用図書「地図」を十分に活用し、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、「地理総合」の学習成果を生かし、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫する。また、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能については、インターネット上に公開されている公的機関をはじめとする情報提供サイトを、中学校以上に適宜適切に利用する。

(3) 地図を活用した言語活動の充実について

地図を有効に活用した事象の説明や、自分の解釈を加えた論述、討論などの活動を充実させる。

(4) 歴史的背景を踏まえることと、政治的、経済的、生物的、地学的な事象などの扱いについて

学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえることとし、政治的、経済的、生物的、地学的な事象なども必要に応じて扱う。しかし、空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とする。また、指導計画の作成の際は、人文地理に関する内容は公民科の「公共」及び「政治・経済」、自然地理に関する内容は理科の地学や生物に関する科目などと、相互の科目の特性などを考慮して、関連、調整を図る。

(5) 専門家などとの連携について

調査の実施や諸資料の収集に当たっては、専門家や関係諸機関などと円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した活動を重視する。

(6) 日本の取扱いについて

各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察する。指導の際には、現代世界の地理に関わる諸事象の理解、認識が深められるよう工夫し、広い視野からグローバル社会における日本の役割について考えることができるよう配慮する。



歴史総合

2単位

新課程と現行課程の項目比較

新課程「歴史総合」(2単位)	現行課程「世界史A」(2単位)
A 歴史の扉 (1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料 B 近代化と私たち (1) 近代化への問い (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題 C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会 (3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 D グローバル化と私たち (1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済 (3) 世界秩序の変容と日本 (4) 現代的な諸課題の形成と展望 ・「歴史総合」は、大項目(A, Bなど)、中項目((1), (2)など)、小項目によって構成されている。 ・「知識及び技能」に関する事項と「思考力、判断力、表現力等」に関する事項は、指導要領では分けて示されているが、学習においては一体のものとして扱う。	(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史 (2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 イ 結び付く世界と近世の日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ アジア諸国の変貌と近代の日本 (3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和 ウ 三つの世界と日本の動向 エ 地球社会への歩みと課題 オ 持続可能な社会への展望
	現行課程「日本史A」(2単位)
	(1) 私たちの時代と歴史 (2) 近代の日本と世界 ア 近代国家の形成と国際関係の推移 イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 ウ 近代の追究 (3) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 現代からの探究

高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」

- 目 標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

ポイント解説	留意点
A 歴史の扉 【解説】 科目の導入として、高等学校の歴史学習への動機付けとそれに必要な歴史学習の基本的な技能と学び方を身に付け、資料と歴史の叙述の関わりについて理解することをねらいとする。 (1) 歴史と私たち 【解説】 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とを、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関連させて考察・表現することにより、両者がつながっていることを理解することをねらいとする。 (2) 歴史の特質と資料 【解説】 過去を知る手がかりとなる様々な歴史資料を活用し、複数の資料の関係や異同に着目して、そこから読み取れる情報の意味や意義、特色などを考察・表現することにより、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解するとともに、資料を取り扱う際の留意点に気付くことをねらいとする。 生徒が歴史資料に触れ、それらと歴史叙述との関係について考察することにより、歴史的な考察には資料が欠かせないこと、様々なものが資料になり得ること、批判的な読み取りと吟味が重要であることなどに気付くようにする。	中学校社会科歴史的分野の大項目Aを踏まえて学習を展開させるとともに、この大項目で得た成果を以後の学習に生かせるようにする。 学習に当たっては、身近な諸事象を起点とした空間的な広がりを意識できるようにする。 資料を比較・関連付けることの意義を捉えられるようにする。
B 近代化と私たち 【解説】 産業社会と国民国家の形成に伴う人々の生活や社会の在り方の変容について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉えて考察することで、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解することをねらいとする。 (1) 近代化への問い	学習に当たっては、(1)で表現した問いを(2)以降の学習においても常に念頭に置くことで、生徒の学習意欲を高めるようにする。 中学校までの学習を踏まえるよう

【解説】 諸資料を活用する技能を習得するとともに、**近代化に伴い人々の生活や社会の在り方が変容**したことについて考察する中で、生徒が興味・関心をもったことや疑問に思ったこと、追究したいことなどを見いだす(=問いを表現する)学習活動を行うことをねらいとする。

生徒が複数の資料を組み合わせ活用し、身近な生活と関わらせて資料から読み取った事象それ自体への問いを表現することで課題意識を育むようにする。

(2) 結び付く世界と日本の開国

【解説】 小項目(ア)では、18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察・表現して、**18世紀のアジアの経済と社会を理解**することをねらいとする。

小項目(イ)では、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察・表現して、**工業化と世界市場の形成を理解**することをねらいとする。

(3) 国民国家と明治維新

【解説】 小項目(ア)では、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察・表現して、**立憲体制と国民国家の形成を理解**することをねらいとする。

小項目(イ)では、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察・表現して、**列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解**することをねらいとする。

(4) 近代化と現代的な諸課題

【解説】 近現代の歴史に存在した課題について主題を設定し、**同時代の社会や人々がどのように対応したのか**を諸資料を活用して考察することで、**現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解**することをねらいとする。

近代化の歴史に存在し、現代社会においても調整が求められ、将来においても継続して直面することが予想される諸課題について、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定する。

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

【解説】 国家間の関係性の変化や個人・集団の社会参加の拡大に伴う人々の生活や社会の在り方の変容について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉えて考察することで、**現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解**することをねらいとする。

(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い

【解説】 諸資料を活用する技能を習得するとともに、**国際秩序の変化や大衆化に伴い、人々の生活や社会の在り方が変容**したことについて考察する中で、生徒が興味・関心をもったことや疑問に思ったこと、追究したいことなどを見いだす(=問いを表現する)学習活動を行うことをねらいとする。

生徒が複数の資料を組み合わせ活用し、身近な生活と関わらせて資料から読み取った事象それ自体への問いを表現することで課題意識を育

にする。

小項目の学習に当たっては、考察を導くための主題を踏まえ、段階的に課題を設定する。

琉球やアイヌの交易上の役割や実態、文化などに触れるようにする。

小項目の学習に当たっては、考察を導くための主題を踏まえ、段階的に課題を設定する。

北方領土に触れるとともに、竹島・尖閣諸島の編入についても触れる。

一つあるいは複数の観点から主題を設定する。

二つの要素の一方のみに着目することのないようにする。

学習に当たっては、(1)で表現した問いを(2)以降の学習においても常に念頭に置くことで、生徒の学習意欲を高めるようにする。

中学校までの学習を踏まえるようにする。

むようにする。

(2) 第一次世界大戦と大衆社会

【解説】 小項目(ア)では、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを考察・表現して、**総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解**することをねらいとする。

小項目(イ)では、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察・表現して、**大衆社会の形成と社会運動の広がり**を理解することをねらいとする。

(3) 経済危機と第二次世界大戦

【解説】 小項目(ア)では、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察・表現して、**国際協調体制の動揺**を理解することをねらいとする。

小項目(イ)では、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察・表現して、**第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰**を理解することをねらいとする。

(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

【解説】 国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在した課題について主題を設定し、**同時代の社会や人々がどのように対応したのか**を諸資料を活用して考察することで、**現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史**を理解することをねらいとする。

国際秩序の変化や大衆化の歴史の中に存在し、現代社会においても調整が求められ、将来においても継続して直面することが予想される諸課題について、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定する。

D グローバル化と私たち

【解説】 科学技術の革新による人や商品などの国境を越えた一層の流動化に伴う人々の生活や社会の在り方の変容について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えて考察することで、現代的な諸課題の形成に関わる**グローバル化の歴史**を理解するとともに、考察・構想して探究することで**現代的な諸課題**を理解することをねらいとする。

(1) グローバル化への問い

【解説】 諸資料を活用する技能を習得するとともに、**グローバル化に伴い人々の生活や社会の在り方が変容**したことについて考察する中で、生徒が興味・関心をもったことや疑問に思ったこと、追究したいことなどを見いだす(=問いを表現する)学習活動を行うことをねらいとする。

生徒が複数の資料を組み合わせ活用し、身近な生活と関わらせて資料から読み取った事象それ自体への問いを表現することで課題意識を育むようにする。

(2) 冷戦と世界経済

【解説】 小項目(ア)では、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを考察・表現して、**国際政治の変容**を理解することをねらいとする。

小項目の学習に当たっては、考察を導くための主題を踏まえて段階的に課題を設定する。

小項目の学習に当たっては、考察を導くための主題を踏まえて段階的に課題を設定する。

第二次世界大戦後の世界情勢もここで扱う。

一つあるいは複数の観点から主題を設定する。

二つの要素の一方のみに着目することのないようにする。

学習に当たっては、(1)で表現した問いを(2)・(3)の学習においても常に念頭に置くことで、生徒の学習意欲を高めるようにする。

中学校までの学習を踏まえるようにする。

小項目の学習に当たっては、考察を導くための主題を踏まえて段階的に課題を設定する。

小項目(イ)では、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察・表現して、**世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解**することをねらいとする。

(3) 世界秩序の変容と日本

【解説】 小項目(フ)では、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを考察・表現して、**市場経済の変容と課題を理解**することをねらいとする。

小項目(イ)では、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを考察・表現して、**冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解**することをねらいとする。

(4) 現代的な諸課題の形成と展望

【解説】 科目のまとめとして、これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を念頭に、**生徒が自らの興味・関心に基づいて設定した主題**について諸資料を活用して**探究する活動を通して、現代的な諸課題を理解**することをねらいとする。

探究する活動とは、生徒が自ら主題を設定し、既習概念を用いたり歴史的な見方・考え方を働かせたりして、諸資料を活用し、**主体的に考察、構想、表現する活動**を意味している。

小項目の学習に当たっては、考察を導くための主題を踏まえて段階的に課題を設定する。

冷戦終結後も残存した課題や、終結後に新たに生まれた課題などに触れるようにする。

主題の設定に当たっては、B～Dの(1)で表現した問いや学習の中で新たに見いだした問いを振り返らせたり、B・Cの(4)での学習を生かしたりすることも可能である。

指導に当たっては、生徒の興味・関心や学校・地域の実態に即した工夫が求められる。

指導計画の作成と指導上の配慮事項

(1) 中学校社会科との関連と指導内容の構成について(内容の取扱いの(1)のア)

中学校までの学習との連続性を意識し、具体的な歴史に関わる事象に触れるようにすることで、生徒が近現代の歴史に興味・関心を持って学ぶことができるようにする。また、個別の事象の理解にとどまらず近現代の歴史の変化を大観して理解できるよう指導する。

(2) 時間的・空間的な捉え方について(内容の取扱いの(1)のイ)

「歴史総合」では、近現代の歴史の諸事象を地理的条件と関連付けて多面的・多角的に扱うことが重要であり、必修科目「地理総合」や中学校社会科地理的分野との関連を十分に踏まえるよう留意する。

(3) 近現代の歴史と現代的な諸課題との関わり方の考察について(内容の取扱いの(1)のウ)

近現代の歴史と現代的な諸課題との関わり方を多面的・多角的に考察するため、歴史を構成する様々な要素を踏まえるとともに、過去と現在の視点の両方から諸事象を捉え、一面的な理解にとどまらないよう留意する。

(4) 諸資料の活用と関係諸機関との連携について(内容の取扱いの(1)のエ)

年表、地図、その他の資料については、自ら資料を収集・選択する力やそれを批判的に読み取って解釈し考察に生かす力、さらにその成果を年表や地図など自ら作成した資料の形で適切に表す力を身に付けられるようにする。文化遺産や博物館、公文書館、その他の資料館については、調査・見学などを取り入れることで、歴史の学習を実体化するとともに、将来にわたって学び続ける機会や方法についての認識や姿勢を育み、生涯学習へと発展させていけるようにする。学校図書館や地域の公共施設については、文献調査などによる資料の収集に活用し、諸資料を整理・保存することの意味や意義、文化財保護の重要性に気付けるようにする。

(5) 活用する資料の選択について(内容の取扱いの(1)のオ)

活用する資料は、生徒の興味・関心や、学校や地域の実態などに応じて、生徒が自身との関わりを実感したり、具体性を伴って考察したりできるよう、十分配慮して選択する。

(6) 近現代の学習について(内容の取扱いの(1)のカ)

近現代の学習に当たっては、客観性の高い資料に基づき、史実の認識・評価に慎重を期するとともに、多様な資料を用いることで、生徒が諸事象の背景や意味を様々な視点から考察できるよう配慮する。また、戦争や紛争などを防止し、平和で民主的な国際社会の構築が重要な課題であることを認識できるようにする。



新課程と現行課程の項目比較

新課程「日本史探究」(3単位)	現行課程「日本史B」(4単位)
A 原始・古代の日本と東アジア ← (1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化
B 中世の日本と世界 ← (1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈 イ 中世国家の形成 ウ 中世社会の展開
C 近世の日本と世界 ← (1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明 イ 近世国家の形成 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容
D 近現代の地域・日本と世界 ← (1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究	(4) 近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 近代産業の発展と近代文化 (5) 両世界大戦期の日本と世界 ア 政党政治の発展と大衆社会の形成 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本 (6) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 歴史の論述

・「日本史探究」は、大項目(A, Bなど)、中項目((1), (2)など)、小項目によって構成されている。

・「知識及び技能」に関する事項と「思考力、判断力、表現力等」に関する事項は、指導要領では分けて示されているが、学習においては一体のものとして扱う。

高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」

目 標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養^{かん}される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
ポイント解説	留意点
A 原始・古代の日本と東アジア 【解説】 人類が日本列島で生活を始めた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に理解できるようにすることをねらいとする。 (1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 【解説】 旧石器文化、縄文文化、弥生文化の成立にいたる時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりを多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することをねらいとする。 旧石器文化から縄文文化への変化については、自然環境と人間の生活との関わりなどに着目して課題(問い)を設定し、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察する学習などが考えられる。ほかに、弥生文化の成立についても、指導要領イ(思考力、判断力、表現力等)で示される点などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。 さらに、こうした学習を踏まえ、時代を通観する問いを表現する学習が求められる。 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 【解説】 資料から情報を収集し読み取る技能を身に付け、その情報から原始・古代の特色についての仮説を表現して、中項目(3)に向けた見通しをもって学習を展開することをねらいとする。 (3) 古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述) 【解説】 (1)の理解や時代を通観する問い、(2)で表現した古代を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、古代の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の	大項目A、B及びC(前近代)では、資料や「歴史総合」で得た学び方を活用し、日本の歴史の展開や伝統と文化への理解を深める。 中項目(1)で時代を通観する問いを表現する際には、変化などに着目し、比較を通して考察し、特色を理解する必要がある。 中項目(2)で扱う歴史資料は「遺構や遺物」、「編纂された歴史書」等が考えられる。なお、資料を提示する際は、多様な分野の分析を組み合わせる必要性もある。 中項目(3)では、事象の意味、関係性などを考察する学習や、諸事象の解釈や画期を表現する学習が求められる。

画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、古代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとする。

小項目(ア)では、国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目したり、律令体制の成立過程と諸文化の形成について、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目したりして、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。

小項目(イ)では、貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現について、同様に学習することが考えられる。

さらに、こうした学習を踏まえ、諸事象の複数の解釈や歴史の展開における画期について考察、表現する学習が求められる。

B 中世の日本と世界

【解説】 平安時代末から戦国時代までを扱い、**中世がどのような時代であったか**を東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に理解できるようにすることをねらいとする。

(1) 中世への転換と歴史的環境

【解説】 院政期から武家政権成立期の展開と歴史的環境とを関連付けて**時代の転換を理解**し、中世の特色を多面的・多角的に考察し、**時代を通観する問いを表現**することをねらいとする。

貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容について、指導要領イ(思考力、判断力、表現力等)で示される点などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。

さらに、こうした学習を踏まえ、時代を通観する問いを表現する学習が求められる。

(2) 歴史資料と中世の展望

【解説】 資料から情報を収集し読み取る技能を身に付け、その情報から**中世の特色についての仮説を表現**して、中項目(3)に向けた見通しをもって学習を展開することをねらいとする。

(3) 中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)

【解説】 (1)の理解や時代を通観する問い、(2)で表現した中世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、中世の国家や社会の展開について、**事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習**を通じて、中世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとする。

小項目(ア)では、武家政権の成立と展開について、公武関係の変化や宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。ほかに、産業の発達、宗教や文化の展開についても、指導要領イ(思考力、判断力、表現力等)で示される点などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。

小項目(イ)では、武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合について、同様に学習する

設定する主題としては、小項目(ア)では、小国の形成と連合や古代国家の形成過程、小項目(イ)では、古代の国家・社会の変容について考察するためのものが考えられる。また、主題を学習上の課題として提示し、小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

中項目(2)で扱う歴史資料は「武家、公家、幕府や寺社の記録」、「絵画などの資料」等が考えられる。

中項目(3)で設定する主題としては、小項目(ア)では、中世の国家・社会の展開、小項目(イ)では、その変容について考察するためのものが考えられる。また、主題を学習上の課題として提示し、小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

ことが考えられる。

さらに、こうした学習を踏まえ、諸事象の複数の解釈や歴史の展開における画期について考察、表現する学習が求められる。

C 近世の日本と世界

【解説】 安土桃山時代から江戸時代までを扱い、**近世がどのような時代であったか**を世界の動向と関連付けて考察し、総合的に理解できるようにすることをねらいとする。

(1) 近世への転換と歴史的環境

【解説】 織豊政権の成立前後からの展開と歴史的環境を関連付けて**時代の転換を理解**し、近世の特色を多面的・多角的に考察し、**時代を通観する問いを表現**することをねらいとする。

織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係について、指導要領イ(思考力、判断力、表現力等)で示される点などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。

さらに、こうした学習を踏まえ、時代を通観する問いを表現する学習が求められる。

(2) 歴史資料と近世の展望

【解説】 資料から情報を収集し読み取る技能を身に付け、その情報から**近世の特色についての仮説を表現**して、中項目(3)に向けた見通しをもって学習を展開することをねらいとする。

(3) 近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)

【解説】 (1)の理解や時代を通観する問い、(2)で表現した近世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家や社会の展開について、**事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期**などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとする。

小項目(ア)では、法や制度による支配秩序の形成と身分制について、織豊政権との類似と相違などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。ほかに、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などについても、指導要領イ(思考力、判断力、表現力等)で示される点などに着目し、課題(問い)を設定して学習することが考えられる。

小項目(イ)では、産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕藩政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開や庶民の生活と文化などについて、同様に学習することが考えられる。

さらに、こうした学習を踏まえ、諸事象の複数の解釈や歴史の展開における画期について考察、表現する学習が求められる。

D 近現代の地域・日本と世界

【解説】 近世の幕末期から現代までを扱う。「歴史総合」の学習を踏まえ、世界の情勢変化とその中での日本の相互の関係や、**日本の近現代の歴史**を多面的・多角的に考察し、構造的に整理して理解することや、**現代の**

中項目(2)で扱う歴史資料は「地域に残る村方(地方)・町方文書」,「浮世絵などの絵画や出版物」等が考えられる。

中項目(3)で設定する主題としては、小項目(ア)では、近世の国家・社会の展開、小項目(イ)では、その変容について考察するためのものが考えられる。また、主題を学習上の課題として提示し、小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

大項目Dでは、「歴史総合」やこの科目の大項目A、B及びCの学習の成果を踏まえる。

日本の課題を考察，構想することをねらいとする。この大項目は，学習を通じて獲得した概念や歴史を考察する力を活用することを想定した構成で，高等学校の歴史学習のまとめとして位置づけられる。

(1) 近代への転換と歴史的環境

【解説】 幕末から近代初頭の展開と歴史的環境を関連付けて**時代の転換を理解し**，近代の特色を多面的・多角的に考察し，**時代を通観する問いを表現**することをねらいとする。

対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立について，指導要領イ（思考力，判断力，表現力等）で示される点などに着目し，課題（問い）を設定して学習することが考えられる。

さらに，こうした学習を踏まえ，時代を通観する問いを表現する学習が求められる。

(2) 歴史資料と近代の展望

【解説】 資料から情報を収集し読み取る技能を身に付け，その情報から**近代の特色についての仮説を表現**して，中項目(3)に向けた見通しをもって学習を展開することをねらいとする。

(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造

【解説】 (1)の理解や時代を通観する問い，(2)で表現した近代を展望する仮説を踏まえるとともに，「歴史総合」での学習の成果を活用して，**近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理**し，多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとする。

小項目(ア)では，明治維新，大日本帝国憲法の制定，条約改正について，アジアや欧米諸国との関係，地域社会の変化などに着目し，課題（問い）を設定して学習することが考えられる。ほかに，自由民権運動，社会運動の動向，政党政治，日清・日露戦争，第一次世界大戦などについても，指導要領イ（思考力，判断力，表現力等）で示される点などに着目し，課題（問い）を設定して学習することが考えられる。

小項目(イ)で文明開化の風潮，産業革命の展開，交通の整備と産業構造の変容，学問の発展や教育制度の拡充，社会問題の発生，小項目(ウ)で恐慌と国際関係，軍部の台頭と対外政策，戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開，小項目(エ)で占領政策と諸改革，日本国憲法の成立，平和条約と独立の回復，戦後の経済復興，アジア諸国との関係，高度経済成長，社会・経済・情報の国際化についても，同様に学習することが考えられる。

さらに，それぞれの小項目で，こうした学習を踏まえ，諸事象の複数の解釈や歴史の展開における画期について考察，表現する学習が求められる。

また，小項目(オ)は，(1)，(2)及び(3)の学習のまとめとして設定される。

(4) 現代の日本の課題の探究

【解説】 これまでの学習を踏まえ，持続可能な社会の実現を視野に入れ，**地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定**し，諸資料を活用して探究する活動を通し，**現代の日本の課題に関わる歴史と展望**について，多面的・多角的に考察，構想して表現することをねらいとする。

学習展開としては，「Ⅰ 主題の設定と学習上の課題（問い）の表現」「Ⅱ 仮説の設定と諸資料の活用」「Ⅲ 仮説の吟味や妥当性の考察」「Ⅳ 学習の成果の発表と対話（歴史の論述）」のような展開が考えられる。

大項目Dは，近現代を一つの大項目と設定しているが，中項目(1)では，近代の特色について考察する。

また，領土の画定などについて取り扱うようにし，その際，北方領土について触れるとともに，竹島，尖閣諸島の編入についても触れる。

中項目(2)も(1)と同様に，近代の特色について考察し，仮説を表現する。

中項目(3)では「地域社会」に着目する視点での探究ができるように指導の工夫が求められる。

設定する主題としては，小項目(ア)では近代の政治の展開と国際的地位の確立，国民の政治参加の拡大について，(イ)では日本の工業化の進展，近代の文化の形成について，(ウ)では第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて，(エ)では戦前と戦後の国家・社会の変容，戦後政治の展開，日本経済の発展，第二次世界大戦後の国際社会における日本の役割について考察するためのものが考えられる。また，主題を学習上の課題として提示し，小項目の学習に当たっては，段階的に課題を設定する。

中項目(4)では，生徒がこれまでの学習を踏まえて，自ら主題を設定することを示している。

指導計画の作成と指導上の配慮事項

(1) 国際環境や地理的条件などとの関連について(内容の取扱いの(1)のア)

学習する時期の空間的な結び付きや、地理的な関係を踏まえた理解が重視される。さらに、中学校社会科歴史的分野での主権者育成に関する学習の充実と、公民科の必修教科目「公共」との関係を踏まえるように留意する。また、カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科や学校行事等との関連付けも求められる。

(2) 中学校社会科との関連と指導内容の構成について(内容の取扱いの(1)のイ)

中学校までの学習や「歴史総合」との連続性に留意する。小学校では、日本の歴史の主な事象を人物や文化遺産を中心に学び、中学校社会科歴史的分野では、日本の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に学ぶ。「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学ぶ。これらを踏まえた「日本史探究」では、事象の結びつきや広がり、関係性などを一層重視し、生徒が現代の社会や自身との関わりなどから、学習への興味・関心をもつことができるように指導を工夫することが大切である。

(3) 諸資料の活用と関係諸機関との連携について(内容の取扱いの(1)のウ)

学校図書館や地域の公共施設の果たす役割や、諸資料を整理・保存し、利用できるようにすることの意味や意義を考えたり、地域の文化遺産などを通して文化財保護への関心を高めたりすることが大切である。

(4) 活用する資料の選択について(内容の取扱いの(1)のエ)

生徒が自身との関わりについて実感したり、具体性をもって考察したりできる資料を提示するように留意する。また、学校や地域の実態に合わせ、資料を選択して示すことも大切である。

(5) 近現代の学習について(内容の取扱いの(1)のオ)

近現代の学習に当たっては、相異なる価値観や対立する立場の一方に偏しない資料に基づく必要がある。また、史実の認識や評価には慎重を期する必要がある。その上で、多様な資料を用いて異なる考え方を紹介することで、生徒自身が様々な立場から考察することが重要である。

(6) 「歴史総合」との関連について(内容の取扱いの(1)のカ)

「歴史総合」で身に付けた資料活用の技能や、生徒が問いを表現したり、主題を設定して考察、表現したり、現代的な諸課題の形成や展望を構想したりする学習の成果を十分に踏まえ、指導を工夫することが重要である。

(7) 伝統や文化の学習について(内容の取扱いの(1)のキ)

民俗学や考古学、文化人類学などの成果を活用して、諸資料を通じて具体的に歴史像を形成できるようにするとともに、身近な生活に見られる一つ一つの事柄が歴史の産物であるという認識に立って、伝統や文化について考察できるようにすることが大切である。

(8) 地域社会の歴史と文化の学習について(内容の取扱いの(1)のク)

前近代からの学習の中で地域社会の歴史と文化を捉えるとともに、「歴史総合」を踏まえ、特に近現代の歴史について、地域社会の歴史を日本全体、さらには世界の歴史と結び付けるよう留意する。



新課程と現行課程の項目比較

新課程「世界史探究」(3単位)	現行課程「世界史B」(4単位)
A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史	(1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史
B 諸地域の歴史的特質の形成 (1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界 イ 南アジア世界・東南アジア世界 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 エ 時間軸からみる諸地域世界
C 諸地域の交流・再編 (1) 諸地域の交流・再編への問い (2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 エ 空間軸からみる諸地域世界
D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本 オ 資料からよみとく歴史の世界
E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究	(5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 ウ 米ソ冷戦と第三世界 エ グローバル化した世界と日本 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題

・「世界史探究」は、大項目(A, Bなど)、中項目((1), (2)など)、小項目によって構成されている。

・「知識及び技能」に関する事項と「思考力、判断力、表現力等」に関する事項は、指導要領では分けて示されているが、学習においては一体のものとして扱う。

高等学校学習指導要領「ポイント解説と留意点」

目 標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
ポイント解説	留意点
A 世界史へのまなざし 【解説】 科目の導入として、自然界や日常生活に見られる諸事象を扱い、身の回りの事象と歴史との関わりを考察し、世界史を時間と空間の相で理解することをねらいとする。大項目B以下の学習に向けて、諸資料を活用して学習課題を追究したり解決したりする学習活動を工夫し、課題意識をもって世界の歴史を学習することの大切さに気付くことができるようにする。 (1) 地球環境から見る人類の歴史 【解説】 地球誕生以来の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し表現する学習活動を通して、人類の歴史と地球環境との関わりを理解することをねらいとする。 人類の誕生 については、地球の形成や生命の誕生と進化などの長い時間軸に位置付けて扱うことで、相対的に短い期間のうちに大きな変化が生じたことに気付くようにする。 地球規模での人類の拡散・移動 については、拡散・移動する中で、人類が自然環境の制約を受けるとともに、自然環境に働きかけ、適応する諸手段を開発してきたことを扱うことで、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性に気付くようにする。 (2) 日常生活から見る世界の歴史 【解説】 衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し表現する活動を通して、日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解することをねらいとする。 B 諸地域の歴史的特質の形成 【解説】 歴史的に形成された諸地域の多様性を、資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通し	指導計画作成に当たっては、「歴史総合」の学習を踏まえ実施するようになる。 学習に当たっては、諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目して主題を設定する。 人類の特性を考察する際には、地球科学、生物学、人類学、考古学などの成果も活用し、興味・関心をもって学習できるよう工夫する。 学習に当たっては、諸事象の来歴や変化に着目して主題を設定する。

て、**諸地域の歴史的特質の形成を理解**することをねらいとする。

(1) 諸地域の歴史的特質への問い

【解説】 諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目して、**諸地域の歴史的特質を読み解く観点**について考察し、表現する学習活動を通して見いだした**問いを表現**することをねらいとする。

諸地域の歴史的特質を読み解く観点とは、生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などが考えられる。

問いを表現とは、諸地域の歴史的特質を読み解く観点に関する資料を活用し、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、諸地域の歴史的特質に関わって抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだす学習活動を意味している。

(2) 古代文明の歴史的特質

【解説】 農耕・牧畜の起こりから各地に古代文明が形成される頃までを総合的に扱い、古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、**古代文明の歴史的特質を理解**することをねらいとする。

古代文明としては、オリエント文明、インダス文明、中華文明に加えて、アフリカや南北アメリカなどを扱うことも考えられる。

(3) 諸地域の歴史的特質

【解説】 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、**小項目(ア)「東アジアと中央ユーラシア」、小項目(イ)「南アジアと東南アジア」、小項目(ウ)「西アジアと地中海周辺」の歴史的特質をそれぞれ理解**することをねらいとする。

小項目(ア)「東アジアと中央ユーラシア」については、秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを扱うことが考えられる。**小項目(イ)「南アジアと東南アジア」**については、仏教の成立とヒンドゥー教や南アジアと東南アジアの諸国家などを扱うことが考えられる。**小項目(ウ)「西アジアと地中海周辺」**については、西アジアと地球海周辺の諸国家やキリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを扱うことが考えられる。

C 諸地域の交流・再編

【解説】 諸地域の複合的・重層的なつながりを、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、**諸地域の交流・再編を理解**することをねらいとする。

(1) 諸地域の交流・再編への問い

【解説】 諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結

資料を複数組み合わせる関連付けたり、視点の異なる複数の資料を比較したりするなど、豊富な資料を基に、生徒が諸地域の歴史的特質を読み解く観点についての考察を深め、自分自身の問いを表現できるようにする。

生活・文化や文化遺産を取り上げたり、博物館等と連携を図るなどして、歴史をイメージ豊かに捉えられるよう工夫し、生徒がその特質を見いだすことができるようにする。

中項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

政治史を中心とした事実の列挙や抽象的な内容構成にならないよう留意し、人々の生活や文化、宗教、交通・運輸手段、取引された物産に着目させたりするなどして、歴史をできるだけ具体的かつイメージ豊かに理解させるよう工夫する。また、諸地域の特質を大観させることも重要である。

小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

資料を複数組み合わせる関連付けたり、視点の異なる複数の資料を比較したりするなど、豊富な資料を基

果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目して，**諸地域の交流・再編を読み解く観点**について考察し，表現する学習活動を通して見いだした**問いを表現**することをねらいとする。

諸地域の交流・再編を読み解く観点とは，交易の拡大，都市の発達，国家体制の変化，宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などが考えられる。

問いを表現とは，諸地域の交流・再編を読み解く観点に関する資料を活用し，情報を読み取ったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，諸地域の交流・再編に関わって抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだす学習活動を意味している。

(2) 結び付くユーラシアと諸地域

【解説】 諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，多面的・多角的に考察し表現することにより，**小項目(ア)「海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり」**，**小項目(イ)「諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出」**を構造的に理解することをねらいとする。

小項目(ア)「海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり」としては，西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播やヨーロッパ封建社会とその展開，宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを扱うことが考えられる。**小項目(イ)「諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出」**としては，アジア海域での交易の興隆，明と日本・朝鮮の動向，スペインとポルトガルの活動などを扱うことが考えられる。

(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編

【解説】 諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，多面的・多角的に考察し表現することにより，**小項目(ア)「アジアの諸地域の特質」**，**小項目(イ)「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」**を構造的に理解することをねらいとする。

小項目(ア)「アジアの諸地域の特質」としては，西アジアや南アジアの諸帝国，清と日本・朝鮮などの動向などを扱うことが考えられる。**小項目(イ)「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」**としては，宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争，大西洋三角貿易の展開，科学革命と啓蒙思想などを扱うことが考えられる。

D 諸地域の結合・変容

【解説】 地球規模での一体化と相互依存のさらなる強まりを，諸資料を比較したり，関連付けたりして読み解き，多面的・多角的に考察し表現する活動を通して，**諸地域の結合・変容を理解**することをねらいとする。

(1) 諸地域の結合・変容への問い

【解説】 諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに，諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目して，**諸**

に，生徒が諸地域の交流・再編を読み解く観点についての考察を深め，自分自身の問いを表現できるようにする。

交流・再編が進展する過程を，諸地域の課題にも着目させながら大局的見地から捉えさせる。各時代における日本の動向にも着目させる。

小項目の学習に当たっては，段階的に課題を設定する。

交流・再編が進展する過程を，諸地域の課題にも着目させながら大局的見地から捉えさせる。各時代における日本の動向にも着目させる。

小項目の学習に当たっては，段階的に課題を設定する。

資料を複数組み合わせ関連付けたり，視点の異なる複数の資料を比較したりするなど，豊富な資料を基に，生徒が諸地域の結合・変容を読

地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、表現する学習活動を通して見いだした問いを表現することをねらいとする。

諸地域の結合・変容を読み解く観点とは、人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などが考えられる。

問いを表現するとは、諸地域の結合・変容を読み解く観点に関する資料を活用し、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、諸地域の交流・再編に関わって抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだす学習活動を意味している。

(2) 世界市場の形成と諸地域の結合

【解説】 日本の動向も視野に入れ、諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、小項目ア「**国民国家と近代民主主義社会の形成**」、小項目イ「**世界市場の形成とアジア諸国の変容**」を構造的に理解することをねらいとする。

小項目ア「**国民国家と近代民主主義社会の形成**」としては、産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを扱うことが考えられる。小項目イ「**世界市場の形成とアジア諸国の変容**」としては、国際的分業と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを扱うことが考えられる。

(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚

【解説】 日本の動向も視野に入れ、諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、小項目ア「**世界分割の進展とナショナリズムの高まり**」、小項目イ「**第一次世界大戦の展開と諸地域の変容**」を構造的に理解することをねらいとする。

小項目ア「**世界分割の進展とナショナリズムの高まり**」としては、第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを扱うことが考えられる。小項目イ「**第一次世界大戦の展開と諸地域の変容**」としては、第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを扱うことが考えられる。

(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容

【解説】 日本の動向も視野に入れ、諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、小項目ア「**国際関係の緊張と対立**」、小項目イ「**第二次世界大戦の展開と諸地域の変容**」を構造的に理解することをねらいとする。

小項目ア「**国際関係の緊張と対立**」としては、世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを扱うことが考えら

み解く観点についての考察を深め、自分自身の問いを表現できるようにする。

小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

朝鮮戦争の勃発と日本のサンフランシスコ講和条約締結までを扱い、アジア・アフリカ諸国の独立については、大項目E(1)で扱うこととする。

小項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

れる。小項目イ「第二次世界大戦の展開と諸地域の変容」としては、第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを扱うことが考えられる。

E 地球世界の課題

【解説】「地球世界の課題」を扱い、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、探究する活動を通して、**歴史的に形成された地球世界の課題を理解**することをねらいとする。

(1) 国際機構の形成と平和への模索

【解説】諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、**紛争解決の取組と課題を理解**することをねらいとする。

紛争解決の取組と課題としては、集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを扱うことが考えられる。

(2) 経済のグローバル化と格差の是正

【解説】諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、**格差是正の取組と課題を理解**することをねらいとする。

格差是正の取組と課題としては、先進国の経済成長と南北問題、アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題、経済のグローバル化などを扱うことが考えられる。

(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会

【解説】諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現することにより、**知識基盤社会の展開と課題を理解**することをねらいとする。

知識基盤社会の展開と課題としては、原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを扱うことが考えられる。

(4) 地球世界の課題の探究

【解説】持続可能な社会の実現を視野に入れ、①紛争解決や共生、②経済格差の是正や経済発展、③科学技術の発展や文化の変容について、諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察、構想して探究し、**地球世界の課題を理解**することをねらいとする。

「世界史探究」の学習の総まとめとして、生徒がこれまで修得した知識や技能を活用して主体的に探究し、その成果を発表したり議論したりするなどの活動を通して、**歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題を理解**

(1)、(2)及び(3)は、20世紀後半から歴史的に形成されてきた「地球世界の課題」を扱い、現代世界の特徴を考察する。(4)での学習に向けて、課題意識をもって世界の歴史を学ぶことができるようにする。

中項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

中項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

持続可能な社会の形成に向け、科学技術における知識の在り方として、人文科学や社会科学等の知識との学際的な連携が求められていることに気付くよう工夫する。

中項目の学習に当たっては、段階的に課題を設定する。

(4)は、この科目のまとめとして、生徒自身の問題関心に基づく主題を設定して探究する学習に位置付ける。

「歴史総合」の学習を踏まえ、全時代の学習を通して習得した知識や技能を活用する。

生徒の興味・関心や学校、地域の実態に留意し、様々な状況に応じて工夫する。

ることをねらいとする。

探究する活動とは、生徒の発想や疑問をもとに生徒自らが主題を設定し、これまでに習得した知識や技能を用いたり、歴史的な見方・考え方を働かせたりして、歴史的観点から諸資料を活用して**主体的に多面的・多角的に考察、構想し、表現する活動**である。

指導計画の作成と指導上の配慮事項

(1) 中学校社会科との関連と指導内容の構成について(内容の取扱いの(1)のア)

「世界史探究」では、中学校までの学習や「歴史総合」との連続性に留意する。小学校では、日本の歴史の主な事象を人物の働きや代表的な文化遺産を中心に学習する。中学校社会科歴史的分野では、日本の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に学ぶ。「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学習する。「世界史探究」では、これらを踏まえ、事象の結び付きや広がり、関係性などを一層重視し、生徒が現代の社会や自身との関わりなどから、学習への興味・関心をもって臨むことができるよう指導を工夫することが大切である。

(2) 時間的・空間的な捉え方について(内容の取扱いの(1)のイ)

「世界史探究」では、歴史に関わる諸事象を地理的条件と関連付けて多面的・多角的に扱うことが重要であり、必修教科目「地理総合」や中学校社会科地理的分野との関連を十分に踏まえるよう留意する。

(3) 諸資料の活用と関係諸機関との連携について(内容の取扱いの(1)のウ)

年表、地図、その他の資料については、自ら資料を収集・選択する力やそれを批判的に読み取って解釈し考察に生かす力、さらにその成果を年表や地図など自ら作成した資料の形で適切に表す力を身に付けられるようにする。文化遺産や博物館、その他の資料館については、調査・見学などを取り入れることで、歴史の学習を実体化するとともに、将来にわたって学び続ける機会や方法についての認識や姿勢を育み、生涯学習へと発展させていけるようにする。学校図書館や地域の公共施設については、文献調査などによる資料の収集に活用し、諸資料を整理・保存することの意味や意義、文化財保護の重要性に気付けるようにする。

(4) 活用する資料の選択について(内容の取扱いの(1)のエ)

活用する資料は、生徒の興味・関心や学校や地域の実態などに応じて、生徒が自身との関わりを実感したり、具体性を伴って考察したりできるよう、十分配慮して選択する。

(5) 近現代の学習について(内容の取扱いの(1)のオ)

近現代の学習に当たっては、客観性の高い資料に基づき、史実の認識・評価に慎重を期するとともに、多様な資料を用いることで、生徒が諸事象の背景や意味を様々な視点から考察できるよう配慮する。また、戦争や紛争などを防止し、平和で民主的な国際社会の構築が重要な課題であることを認識できるようにする。

(6) 「歴史総合」との関連について(内容の取扱いの(1)のカ)

「歴史総合」の学習の成果を活用し、世界の歴史の大きな枠組みと展開について、日本の歴史と関連付けながら具体的な考察ができるようにする。また、「歴史総合」で身に付けた資料の活用の技能や、問いを表現する学習、現代的な諸課題の学習などの成果を踏まえ、指導を工夫する。



高等学校 新教育課程「カリキュラムモデル案」

(下線は必履修科目。斜字は学校設定科目。普通科は週32単位時間、実業校は31単位時間で想定。○囲み数字は単位数)

2018年 8 月

第一学習社モデル案作成

モデル案 A 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1 年	現代の 国語②	言語文化③	歴史総 合②	数学Ⅰ③	数学 A ②	物理基 礎②	生物基 礎②	体育③	保健 ①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニ ケーションⅠ④	論理・ 表現Ⅰ ②	情報Ⅰ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																	
2 年 文系	論理国 語②	古典探 究②	文学国 語②	地理総 合②	公共②	日本史 探究② 世界史 探究②	数学Ⅱ④	数学 B ②	化学基 礎②	体育②	保健 ①	英語コミュニ ケーションⅡ④	論理・ 表現Ⅱ ②	家庭基 礎②	LHR ①																	
2 年 理系	論理国 語②	古典探 究②	地理総 合②	公共②	数学Ⅱ④	数学 B ②	化学基 礎②	化学②	物理② 生物②	体育②	保健 ①	英語コミュニ ケーションⅡ④	論理・ 表現Ⅱ ②	家庭基 礎②	LHR ①																	
3 年 文系	論理国 語②	古典探究③	文学国 語②	日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④	政治・ 経済②	数学研究③	化学研 究②	生物研 究②	体育②	英語コミュニ ケーションⅢ④	論理・ 表現Ⅲ ②	文系選 択科目 ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																		
3 年 理系	論理国 語②	古典探 究②	地理探究④	数学Ⅲ④	数学 C ②	物理④ 生物④	化学④	体育②	英語コミュニ ケーションⅢ④	論理・ 表現Ⅲ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																				

ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を1科目、理科を2科目配置、2年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を1科目配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。
3. 必履修科目の「英語コミュニケーションⅠ」を1年生で4単位、「情報Ⅰ」を1年生に、「家庭基礎」を2年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と3年次履修の計2単位とした。

モデル案 B 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1 年	現代の 国語②	言語文 化②	地理総 合②	公共②	数学Ⅰ④	数学 A ②	生物基 礎②	体育②	保健 ①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュ ニケーションⅠ③	論理・ 表現Ⅰ ②	家庭基 礎②	情報Ⅰ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																
2 年 文系	論理国 語②	古典探 究②	文学国 語②	歴史総 合②	日本史 探究② 世界史 探究②	数学Ⅱ④	数学 B ②	化学基 礎②	地学基 礎②	体育③	保健 ①	英語コミュニ ケーションⅡ④	論理・ 表現Ⅱ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																	
2 年 理系	論理国 語②	古典探 究②	歴史総 合②	数学Ⅱ④	数学 B ②	物理基礎③	化学基 礎②	化学③	体育③	保健 ①	英語コミュニ ケーションⅡ④	論理・ 表現Ⅱ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																		
3 年 文系	論理国 語②	古典探究③	文学国 語②	国語表 現② 数学研 究②	日本史探究⑤ 世界史探究⑤ 地理探究⑤	政治・ 経済②	政治・ 経済②	化学④ 生物④ 地学④	体育②	英語研 究② 文系選 択科目②	英語コミュニ ケーションⅢ④	論理・ 表現Ⅲ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																		
3 年 理系	論理国 語②	古典探 究②	地理探究④ 国語研 究②	数学Ⅲ④	数学 C ②	物理⑤ 生物⑤	化学③	体育②	英語コミュニ ケーションⅢ④	論理・ 表現Ⅲ ②	総合 的な 探究 の時 間①	LHR ①																				

ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を1科目配置、2年生で必履修の地歴公民を1科目、理科2科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」「言語文化」を2単位ずつ、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。「国語表現」は文系2・3年生で選択。
3. 必履修科目の「数学Ⅰ」を1年生で4単位履修する。
4. 必履修科目の「家庭基礎」「情報Ⅰ」とも1年生に配置した。

モデル案C 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の 国語②	言語文 化②	地理総 合②	公共②	数学Ⅰ③	数学A ②	化学基 礎②	生物基 礎②	体育③	保健 ①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュ ニケーションⅠ③	論理・ 表現Ⅰ ②	情報Ⅰ ②	総合的な 探究の時 間①	LHR ①																
2年 文系	論理国 語②	古典探 究②	文学国 語②	歴史総合③	数学Ⅱ④	数学B ② 国語表 現②	地学基 礎②	化学② 生物②	体育②	保健 ①	英語コミュ ニケーションⅡ④	論理・ 表現Ⅱ ②	家庭基 礎②	総合的な 探究の時 間①	LHR ①																	
2年 理系	論理国 語②	古典探 究②	歴史総 合②	数学Ⅱ⑤	数学B ②	物理基 礎②	物理②	化学② 生物②	体育②	保健 ①	英語コミュ ニケーションⅡ④	論理・ 表現Ⅱ ②	家庭基 礎②	総合的な 探究の時 間①	LHR ①																	

3年 文系	論理国 語②	古典探究③	文学国 語②	国語表 現②	日本史探究⑤		政治・経済 ③		生物研 究②	化学研 究②	体育②	英語コミュニ ケーションⅢ④	論理・ 表現Ⅲ ②	文系選 択科目 ②	LHR ①
				数学研 究②	世界史探究⑤		倫理③	地学研 究②							
					地理探究⑤										
3年 理系	論理国 語②	古典探 究②	地理探究④	数学Ⅲ⑤			数学C ②	物理④	化学④	体育②	英語コミュニ ケーションⅢ④	論理・ 表現Ⅲ ②	LHR ①		
									生物④						

ポイント

1. 1年生で必修の地歴公民を2科目、理科を2科目配置、2年生で必修の地歴公民1科目(「歴史総合」を3単位とした)、理科1科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」「言語文化」を2単位ずつ、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。「国語表現」は文系2・3年生で選択。
3. 必修科目の「情報Ⅰ」を1年生に、「家庭基礎」を2年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と2年次履修の計2単位とした。

モデル案D 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の 国語②		言語文化③		歴史総合③			数学Ⅰ③			数学A ②		化学基 礎②		体育③			保健 ①		音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②		英語コミュ ニケーショ ンⅠ③		論理・ 表現Ⅰ ②		家庭基 礎②		情報Ⅰ ②		総合的な 探究の時 間①		LHR ①
2年 文系	論理国 語②		古典探究③			文学国 語②		地理総 合②		公共②		日本史探究 ③ 世界史探究 ③		数学Ⅱ④			生物基 礎②		地学基 礎②		体育②		保健 ①		英語コミュニケ ーションⅡ④		論理・ 表現Ⅱ ②		LHR ①			
2年 理系	論理国 語②		古典探 究②		地理総 合②		公共②		数学Ⅱ④			数学B ②		物理基 礎②		生物基 礎②		物理② 生物②		化学②		体育②		保健 ①		英語コミュニケ ーションⅡ④		論理・ 表現Ⅱ ②		LHR ①		
3年 文系	論理国 語②		古典探究③			文学国 語②		日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④		政治・ 経済② 倫理② 数学研 究②		英語研 究② 国語研 究② 化学④ 生物④ 地学④		体育③			英語コミュニケ ーションⅢ④		論理・ 表現Ⅲ ②		政治・ 経済② 倫理② 理科研 究②		文系選 択科目 ②		総合的な 探究の時 間①		LHR ①					
3年 理系	論理国 語②		古典探 究②		地理探究③ 国語研究③ 英語研究③		数学Ⅲ⑤			数学C③			物理③ 生物③		化学③		体育③		英語コミュニケ ーションⅢ④		理系選 択科目 ②		総合的な 探究の時 間①		LHR ①							

ポイント

1. 1年生で必修の地歴公民を1科目(「歴史総合」を3単位とした)、理科を1科目配置、2年生で必修の地歴公民を2科目、理科2科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し(単位数異なる)、文系は加えて「文学国語」も履修する。
3. 必修科目の「家庭基礎」「情報Ⅰ」とも1年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と3年次履修の計2単位とした。

モデル案E 全日制実業校の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	言語文化③			歴史総合②		数学Ⅰ③			科学と人間生活②		体育②		保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②		英語コミュニケーションⅠ③		家庭総合②		実業科目⑩											LHR①
2年	現代の国語②		文学国語②		公共②		数学A②		生物基礎②		体育②		保健①	英語コミュニケーションⅡ④			家庭総合②		実業科目⑪											LHR①	
3年	文学国語②		地理総合②		国語研究② 政治・経済②		日本史探究③			体育③			論理・表現Ⅰ②		国語研究② 数学研究②		社会研究② 理科研究②		実業科目⑫											LHR①	

ポイント

1. 主として商業系高校を想定した。
2. 必修の地歴公民3科目は、1・2・3年生で2単位ずつ履修。理科は1年生で「科学と人間生活」、2年生で「生物基礎」を履修し、必修科目をクリアとする。
3. 国語は1年生で「言語文化」を3単位、2年生で「現代の国語」を2単位で必修をクリアし、2・3年生で「文学国語」を2単位ずつ履修する。
4. 必修の「家庭総合」(4単位)を1・2年生で2単位ずつ分割して履修する。
5. 「総合的な探究の時間」は、実業科目中の「課題研究等」の授業履修に置き換えることを前提とする。

モデル案F 全日制実業校の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1年	現代の 国語②		地理総 合②		数学Ⅰ③			科学と 人間生 活②		体育③			保 健 ①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②		英語コミュ ニケーショ ンⅠ③		実業科目⑫														LHR ①
2年	言語文化③		公共②		数学Ⅱ④			物理基 礎② (生物基 礎②)		体育②			保 健 ①	英語コミュ ニケーションⅡ ②		実業科目⑭														LHR ①		
3年	国語研 究②		歴史総 合②		数学A ②		数学B ② 学校設定 科目②		理科研 究② 学校設定 科目②		体育②			英語コミュ ニケーションⅡ ②		家庭基 礎②		実業科目⑭														LHR ①

ポイント

1. 主として工業系・農業系高校を想定した。
2. 必修の地歴公民3科目は、1・2・3年生で2単位ずつ履修。理科は1年生で「科学と人間生活」、2年生で「物理基礎」(生物基礎)を履修し、必修科目をクリアとする。
3. 国語は1年生で「現代の国語」を2単位、2年生で「言語文化」を3単位で必修をクリア。3年生で学校設定科目の「国語研究」を配置。
4. 必修の「家庭基礎」を3年生で履修する。
5. 「総合的な探究の時間」は、実業科目中の「課題研究等」の授業履修に置き換えることを前提とする。

文部科学省ホームページ 新学習指導要領
「高等学校学習指導要領解説」等を加工して作成。
(カリキュラムモデル案を除く。)

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm)

※本冊子の詳細な内容は、パソコン・スマートフォンでご確認下さい。
(別途通信費が必要です。)



新教育課程 高等学校 学習指導要領 ポイント解説 **地理歴史**



教育図書出版

第一学習社

2018年9月20日発行

東京：〒102-0084	東京都千代田区二番町5番5号	☎03-5276-2700
大阪：〒564-0052	吹田市広芝町8番24号	☎06-6380-1391
広島：〒733-8521	広島市西区横川新町7番14号	☎082-234-6800
札幌：☎011-811-1848	青森：☎017-742-4600	仙台：☎022-271-5313
新潟：☎025-290-6077	つくば：☎029-853-1080	東京：☎03-5803-2131
横浜：☎045-953-6191	金沢：☎076-291-5775	名古屋：☎052-769-1339
神戸：☎078-937-0255	広島：☎082-222-8565	福岡：☎092-771-1651
沖縄：☎098-896-0085		